

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立青葉小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

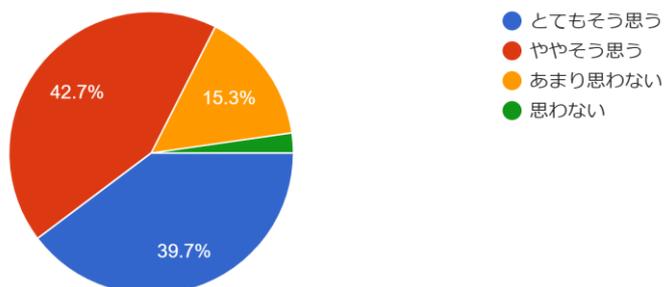
- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

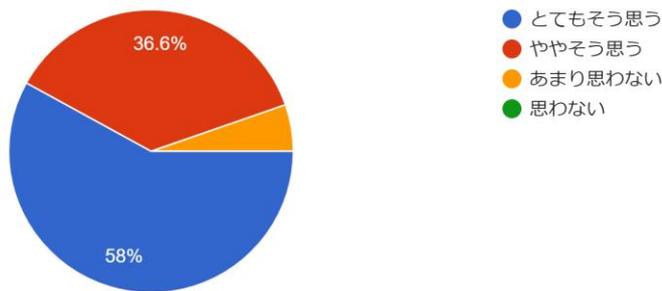
- 実施している
- ・実施していない

(3) 自校における評価（保護者アンケートより）

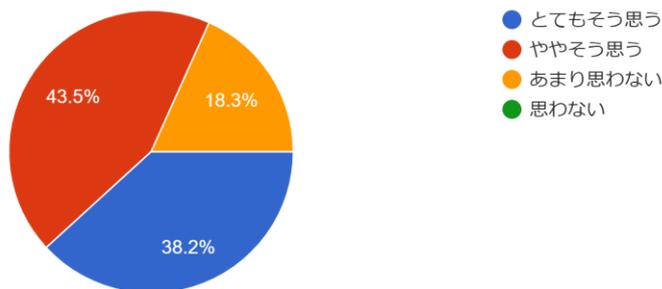
1. 1年生からの英会話学習が、英語によるコミ...的な能力の育成につながっていると思いますか。



2. 1年生からの英会話学習は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。



3. 1年生からの英会話学習によって、外国語や 外国への 関心が高まっていると思いますか。



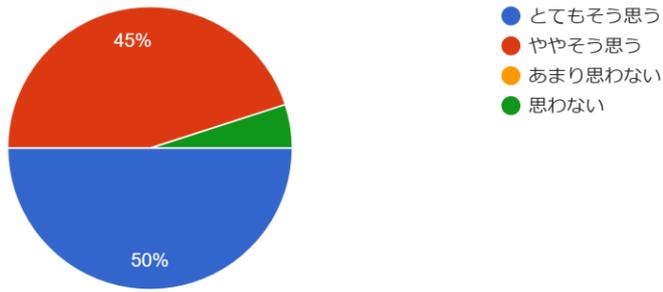
【保護者アンケート・記述より（期待すること）】

- ・世界を知るきっかけになってほしい。日本以外にも目を向けて欲しい。異文化に触れる機会。
- ・英会話に慣れ親しみ、今後の英語学習への抵抗感がなくなってほしい。
- ・日常生活で英会話も使って欲しい。文法より、自然に英語を取り入れられる機会になってほしい。
- ・ネイティブの発音で学習をしてほしい。フォニックスを取り入れて欲しい。
- ・毎日1時間程度の学習をしてほしい。
- ・将来の仕事の幅が広がることを期待します。より広い視野や可能性につながってほしい。
- ・早いうちから取り組むことで、英会話学習への慣れ親しんでほしい。
- ・1年生でも目的をもって学習させて欲しい。
- ・コミュニケーション力や、相手に伝えたいという思いや喜びを身に付けて欲しい。
- ・英語の歌や挨拶などの単語を覚えやすいと思う。
- ・外国人の先生とのコミュニケーションを通して、外国の人や外国へも慣れて欲しい。
- ・習熟度に差が出てしまうので、うまくサポートしてもらいたい。
- ・平和な世界を想像する力のもとになってほしい。
- ・英語の発音を聞き取る練習には小さいときからのほうがよいと思う。

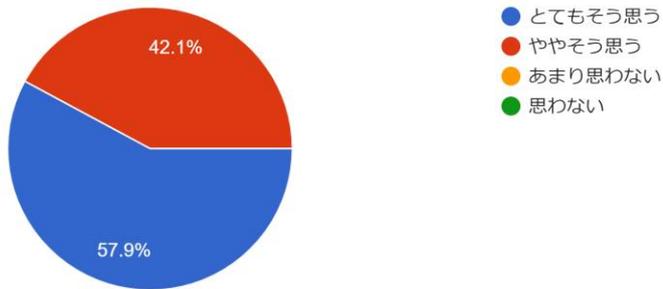
(* 記述の内容をまとめました。)

(4) 学校関係者による評価

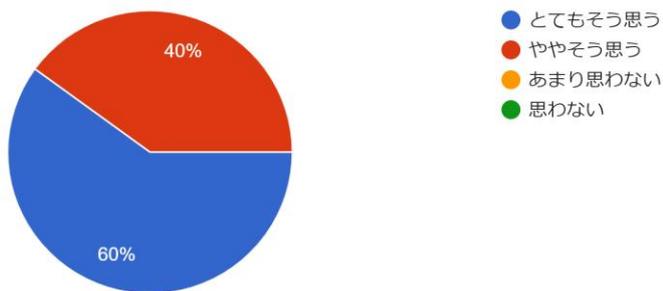
1. 1年生からの英会話学習が英語によるコミュニ...的な能力の育成につながっていると思いますか。



2. 1年生からの英会話学習は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。



3. 1年生からの英会話学習によって、外国語や...に対する興味・関心が高まっていると思いますか。



【教員アンケートより（期待したいこと）】

- ・ 英語を通して、外国の言語や文化に興味・関心を持って欲しい。
- ・ 会話を通して、自分の世界を広げて欲しい。
- ・ 小さな頃からの英語の耳慣れ・インプットをする機会になって欲しい。
- ・ 日本以外の文化を知るきっかけになって欲しい。
- ・ 外国語を学ぶ楽しさを感じて欲しい。

- ・自分のことを英語を使って表現する体験をして欲しい。
- ・ネイティブの発音に慣れ親しむことができる。
- ・英語塾に行かなくても、日常会話ができるようになる授業でありたい。

3. 実施の効果及び課題

- ・児童は、低学年から英会話や外国人講師に慣れ親しむことで、英会話を身近なものとして感じていることが伺われる。3年生は英語劇を演じたり、4年生は足利観光案内所を英語で開催したりしている。この様子から、児童が自ら英語を話すことに抵抗が少なくなっていることを感じている。これは、英会話学習の成果だと思う。また、高学年の英語チャレンジDAYでは、一日中、外国人講師と触れ合い、英語を話すことや聞くことを楽しんでいる様子だった。普段の授業でも、ALT や EAA と英会話を楽しみながら学んでいる児童が多いので、中学校での ALT の授業への抵抗も少ないのではないかという期待が持たれる。
- ・一方で、「英語は苦手」という意識を持つ児童もいて、「分からないから」「難しいから」という理由で、消極的になっている様子が見られる。低学年の「楽しい英会話」から、「外国語活動」への移行の際のギャップを感じている児童もおり、丁寧な対応が必要だと感じる。
- ・また、期待、と言う点から、英語塾に行かなくても学校の授業で話せるようになって欲しい、話す・聞くに加え、書く・読むことの技能の定着にも期待を寄せている意見もあり、基本的な技能の定着もより力を入れるところだと感じられた。

4. 課題の改善のための取組の方向性

昨年度までと同様、低学年からの英会話授業は、英会話を身近なものと感じられるよい機会になっていると思う。上学年になるにつれての苦手意識を持たせないように、「楽しい」だけではなく、「わかる」「できる」授業を大切にしていくことが必要だと考えられる。そのためには、各単元のゴール（到達目標）を見据えた授業作りが必要となる。「この単元で何をできるようにしたいのか。」「そのための授業展開はどうあるべきか。」といったことを念頭において、スモールステップを意識した授業を組み立てていくようにしていきたい。さらに、児童の実態を把握するためにも終末での振り返りも大切にしたい。また、児童が英会話を身近に感じられるように、英会話の場面作りには、他教科との関連や、必然性のある場面などを考え、ALT や EAA と打合せをすることが必要だと考えられる。担任ならではの、担当児童に合った場면을提案することもできると考えられる。

英語チャレンジDAYでは、今までインプットしてきたものをアウトプットしてみて、「できた。」（話せた、英語が通じた）喜びを感じたり、自信をつけたりする場を設定していきたい。